

助成者	小関 皆乎	活動期間	2021年4月～2023年10月
所属機関	藪の傍	職名	代表

カンボジアにおける資源循環型農業の確立をベースとした教育支援システムの構築

－ 自立できる農家の育成と学校菜園の開設による次世代の教育 －

【活動場所】 カンボジア リエンポン村、ケオポア町

【事業目的】 環境に恵まれない貧村において、風土や伝統を考慮したカンボジア独自の環境保全型農業を確立させ、土地に根ざした誇れる仕事として農業で自立した生計が成り立つことを目的とする。まず環境保全型研修センターを設立し、有機農業法を共同で作業し学ぶ機会を提供し、環境への意識を高めていく。循環型農法の一環として養鶏にも取り組み、次代の指導者を育て、最終的には村人の自治による農業協同組合の設立・運営を目指す。（内田隆太氏、森田清和氏との協働事業）

有機栽培研修



【活動内容】

- ①環境保全型研修センター整備・活用：炊事場改良、農業協同組合発足および組合員募集（加入員15世帯）
- ②養鶏家育成：研修、鶏の貸出、鶏舎建設（リエンポン15世帯、ケオポア中学）
- ③農業教育プログラムの実施（農林水産局員がセンター圃場で週1度実施）
- ④有機農業収穫物の販路構築（飲食店2店舗、SNSや広報誌の活用）

【活動成果】

コロナによる移動制限および収入減は、事業活動へ大きな影を落とした。上記の活動を展開するも、農民は目先の生活費を優先せざるを得ない環境下であったため、有機農業へ農民を呼び込む大きな流れをつくることはできなかった。リエンポン村の事業環境が厳しく、3年目は活動拠点をケオポア中学へ求めた。しかしながら、団体圃場の無償貸出しや鶏舎建設の支援など農民に寄り添った地道な活動は少しずつ収入にも繋がっており、アフターコロナでは販路拡大も期待できるため方向性は間違っていない。長期的視野で事業が継続され、所期の目的が達成されることを期待したい。

鶏舎の建設と貸与

